

令和4年度 第1回 介護・医療連携推進会議 議事録

事業所名：ウェルフォース定期巡回・随時対応型訪問介護看護ステーション

開催日時：令和4年9月23日（金） 17:00～17:30

開催場所：ル・ヴァンヴェール白鳥1階ダイルーム

参加者：連携診療所医師：1名 連携訪問看護事業所：1名 自事業所職員：3名

議題1 管理者変更の報告

管理者の薮谷より、令和4年1月1日付けで管理者の変更があった旨の説明があった。

前管理者の成田真弓が令和4年の春から葛飾区医師会附属看護専門学校の准看護学科に通学することとなり、勤務形態が常勤から非常勤になることから薮谷光貴に管理者を変更した。

議題2 利用実績状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	3名	3名	3名	4名	6名	7名
平均介護度	2.3	2	2	2.5	2.5	2.4
問合せ数		1件		1件	1件	2件

管理者の薮谷より、令和4年度の上半期の利用実績状況について報告があった。

令和4年5月より営業体制を変更し、営業資料や新たなメンバーの営業を開始した結果、新規利用者が少しずつ増えてきている。

営業体制の変更が良い結果に繋がってきているので、このまま継続的に利用者数を増加させていきたい。

議題3 介護・医療の連携強化に向けた取り組み

管理者の薮谷より、現在サービスを提供しているご利用者のケースで医療的にアドバイス・指導を頂きたいとの話しがあった。

【ケース内容】

○年齢：76歳 ○性別：女性 ○介護度：要介護2

- 住環境：夫婦、息子2人とマンションで生活。長男は自室にいるがほとんど関心がなく、夫の週2日の就労と週1日のデイサービスの間は日中独居。
糖尿病が悪化し、血糖値500を超えることもあり、主治医より介護の導入を勧められた。
- 病名：糖尿病・認知症
- 経過と状況：今まで家族で服薬を促していたが、ほとんど飲めない状態が続き、糖尿病が悪化。血糖値500を超えることもあり主治医より介護の導入を勧められ、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの利用となった。
導入時ほぼ1ヶ月分の薬が残っている状態。
服薬確認、排泄介助・・・週7日、1日3回訪問
週1回訪問看護により薬セット。
- 支援経過
初回訪問時受け入れはスムーズに行えているが排泄の一連の動作が出来ておらず、ケアマネジャーに報告し、介助の必要性を報告する。本人も認知症が進み理解が出来ず、辛い様子だが、訪問時のトイレ誘導には応じて頂けており、リハパンを交換することで清潔を保つことが出来ている。
また、家族の薬促し時は、30分以上かかることが多く、それが喧嘩に繋がってしまうことも多くなっていた。本サービスを提供した後は、ご利用者が笑いながら服薬をされているのをご主人が見て、驚きと喜びの声を頂く。現状は飲み残しが無くなっている。
- 委員からの意見
医師より、服薬管理で血糖が落ち着いたら、生活のリズムを整える為にも外出をして、体を動かしていくことも必要。
看護より、飲み残しを防ぐために空袋を一括にまとめ、訪問時に確認していくのが良い。
また、排泄の状態は感染の恐れがある為、感染予防のケアが必要。

以上